会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和元年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」Ⅰ．教職員の資質能力向上の推進　（ⅱ）教職員研修プログラムの構築事業 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第5回学習評価研修WG |
| 開催日時 | 令和元年12月4日（水）13:30～16:30 |
| 場所 | リファレンス駅東ビル H-5 |
| 出席者 | 委員：近藤賢宏、植上一希、佐藤昭宏事務局：飯塚正成オブザーバー：疋田（合計5名） |
| 議題等 | ○基礎編について ・2月7日までに原稿の状態ではなく、冊子（アウトプットとして紙媒体に、教材と指導書としての2つ）の状態で提出したい。 →12月24日山口研修の日に基礎編の打ち合わせをおこなう。 　提出は1月の第1週までに完成（pptとノート）、提出。 ・校正と印刷を同じ会社でおこなう。 ＜スケジュール＞ ・12月24日の段階で基礎編最終原稿を確認。 ・1月20日の段階に訂正が入ったものを提出。 ・1月28日の推進委員会で最終原稿を提出。  ○応用編について ＜スケジュール＞ ・何らかの冊子が必要。A4版で3～4枚ほど。1～3時間目の目的やポイントが分かるようなもの。 ・pptとツール（ワークシート等）。必要なツールについてはppt内に書き込む。別にツールのリストを作成。 ・紙焼きの状態を1月20日の段階で完成。 ・アンケートの分析を佐藤、授業の構成等を植上。 ＜内容面＞ ・評価シートは非認知能力に絞る。考えてほしい非認知能力を講師側から提示し学科ごとに絞ってもらうか、卒業時点で必要な非認知能力を挙げてもらうか。 →山口研修については事前課題として何を設定するのかと2時間目をどう変えるか。 　YICはある程度観点等フォーマット化されているため、スタートが違う。代案の課題として手応えがあった授業を持ってきてもらう。 　どのように教員を括るのか（公務員系等の難しさ）、分野や担当授業等。 ・ワークは有効であったが、一方で時間が足りなかったという感想が多かった。気づきは得ているため、完結しなくても大丈夫だとは思う。しかしながら講師側からここについて言及するのかどうなのか決めた方がいい。 ・シラバスと評価シートを同じ科目を持ってきた方が分かりやすい。 →今回は意図があるため現在の順序でもいいが、他の状況の場合はどうなのか。 　今回の順番については、シラバスを書いてはいるものの教員側が理解をしているかが分からないため、評価シート→シラバスにしている。学校ごとで違うのでは。 　2時間目を丁寧にやると。 ・検定試験の差は専門学校ごとに違いはほとんどない（知識について）。そこで差別化を図ると考えると非認知能力の意味や価値がある。 ・KBCの事例を使うか現在作成中のYICボランティアの評価シートを使用するか。沖縄研修は近藤先生の存在とircの状況を理解している教員が受講しているという状況があった。 →同じものを使用して比較してみるといいのでは。 　事例をKBCとYICで2つ入れる。2時間目は佐藤・小田で担当。 　評価シートについては今回は非認知能力の部分だけを使用してワークを実施する。 ・「ルーブリック評価」についての説明を入れる。 →応用編と基礎編の内容が重複するため、本来は基礎編に入っていた方がいい。基礎編の評価の種類の部分でルーブリックを方法論として。 ・回覧の時間が短かったのか長かったのか。また、回覧の際に説明役割として1人残しておくのか。 →サイズ感としては20名程度で設定した方がいい。定員を決めておくと回覧の時間も設定できるのでは。他方で、他の学科の教員が重要視しているポイントを知ることができる機会となっている。 　説明役割を残すと回覧の時間が長くなるため、当日の規模感で考えた方がいい。 ・3時間目は作った評価シートをシラバスにおいてどこで使用すると活きるのかが分かるものに。改善した評価方法を使用するのであればどこで使うかを挙げてもらう。 →3時間目のシラバスの書き換えシートを作り直す。  ・最終的にこの研修で学んだことを今後繰り返しおこなっていくことが重要であるということが伝わる研修であるといい。 →ここについて伝えるスライドを入れる。 　評価シートが教育課程編成委員会やインターンシップ等での企業との点検でも使えるという感想があった。どのように活用できるのかということを事例として示すと分かりやすい。  ・山口研修については1時間目は変えない。2時間目は事例を加えてボリュームを増やす。3時間目は流れ自体は変わらないが、具体的に何の作業をしてもらうのかを提示する程度。 →pptの取りまとめは佐藤担当。 ・アンケートは沖縄研修と同じものを山口研修でも使用する。  ・参加者については技術・技能や実践的な授業を担当している教員が好ましい。そういった対象に効果があった、という程度でいいのでは。 →実際、非正規の教員がこのような評価シートを作成できるのか。非正規の教員と頻繁にやり取りをすることが少ない。専任教員に絞った方がいいのでは。  |

以上